

倫友対談
一語一会

「苦難は、幸福の門(苦難福門)」



倫友同士のとおきの会話をお届けする「一語一会」。毎回、万人幸福の葉十七箇条から一語を選び、それをテーマに語り合ってください。今回は、4月5日に開催されるチャリティ企画「千の音色でつなぐ絆コンサート in 能登」の運営の中心となる七尾市倫理法人会 会長の番匠久雄氏と、奥能登倫理法人会 会長の井川國雄氏に、会場となる能登演劇堂にお越しいただき、コンサートの趣旨と、会場を同じ被災地である能登にした意味などについて語っていただきました。

能登に響け！ “TSUNAMI VIOLIN”

番匠 ● 4月5日土曜日に、この能登演劇堂で「千の音色でつなぐ絆コンサート in 能登」というヴァイオリンコンサートを開催することになりました。主催は石川県倫理法人会なのですが、七尾市倫理法人会と、奥能登倫理法人会が主管となってこのチャリティ企画を盛り上げていこうということなのです。

井川 ● 東日本大震災で発生した津波の流木からつくられたヴァイオリン“TSUNAMI VIOLIN”を、千人のヴァイオリニストがリレーのように弾き継いでいくプロジェクトですね。

番匠 ● 「瓦礫」として扱われる流木ですが、被災地で生まれ

育ち、幾年もの間、人々の営みを見守ってきた木々であり、震災前、家屋の床柱や梁に使われ、家庭をあたたく見守っていた木々なんですね。一本一本に、その土地で暮らしてきた人々の、過去や歴史や香りが詰まっているのです。その木々をヴァイオリンとして生まれ変わらせることで、故郷東北の記憶や思い出を、音色として語り継いでいくことができるのではないか、とこのヴァイオリンを制作されたヴァイオリンドクター中澤宗幸氏は考えたそうです。

井川 ● 「千の音色…」とありますが、千というのは「千羽鶴」ですとか「千手観音」というように、日本人の願いや祈りに関係する数字でもあります。千人のアーティストの方々が、弾き継ぐことで震災の記憶を風化させず継続的に支援を続けていくこと、支援を訴えていくことを目的としているの

ですが、そこには亡くなった方への鎮魂と、復興に対する誓いといいますか、祈りにも似た願いのようなものを感じますね。

番匠 ● このお話をいただいたのは、今年の8月だったかな。梶谷スーパーバイザーから「震災の木をつかったヴァイオリンコンサートがあるから、ぜひとも石川県で開催したい」というご提案がありました。会場は同じ被災地ということで能登が良いのでは、ということでした。福井県でコンサートがあるとお聞きして、10月に私も県倫理法人会の中野会長、連幹事長、長澤女性委員長と一緒にうかがい、これはいい、ぜひとも石川県で開催したいということになりました。

この活動の中心となる「命をつなぐ木魂の会」の又川俊三会長に問い合わせたところ、「各単会のみなさんにも企画の意図を知ってもらいたいの、イベントの開催を決定する前に話をさせていただきたい」というお申し出があり、12月に七尾のナイトセミナー、モーニングセミナーで、想いを語っていただきました。

井川 ● 又川俊三さんというのは、倫理研究所倫理経営上級インストラクターで岩手県倫理法人会 相談役でもありますよね。

番匠 ● そうです。女性委員会の方にもご参加いただき、ナイトセミナーは約30名、モーニングセミナーは約50名の方々が来てくださいました。

井川 ● 私も七尾のナイトセミナーとモーニングセミナーで又川さんから東日本大震災に対する想いを聞かせていただき、感動しましたよ。能登半島地震のことが蘇ってきました。

番匠 ● 又川さんもおっしゃっていましたが「日本人というのは、熱しやすく冷めやすい。震災当時は、大変だねと言っていたのが、いつの間にか話題にも上らなくなる」。福井でのコンサートでも「東北は全然変わっていないですよ。忘れてもらっては困りますよ」というお話でした。

能登半島地震を忘れてはいけない

番匠 ● 能登半島地震から、もう7年も経ったんですね。

井川 ● 奥能登もひどかったんですよ。震災の痕跡が残らないほど町はきれいに復旧されているでしょ。そのため、震災があったことすら記憶から、すっかり消え失せていましたね。

番匠 ● 能登と言っても広いんですよ。津幡から珠洲まで車で2時間。加賀から2時間も走

ると京都まで行ってしまう(笑)。私が暮らす羽咋では被害はほとんどありませんでした。一番ひどかったのは、門前、穴水の駅前周辺だったでしょ。

井川 ● 私は穴水ですので、自宅が半壊しましたよ。今でもはっきり覚えています、3月25日午前9時半ごろだったかな。日曜日だったので、2階でテレビを見ていたら、地震が来ましてね、そうとう揺れました。海が近く津波の心配がありましたので、家族の無事を確認して、非常持ち出し袋だけをもって、車で高台に行きました。同じように避難して来られた方が数名いらっやいました。休日でみなさん、家にいましたからよかったですけど、これが平日だったら被害はもっと大きくなっていったと思いますよ。

番匠 ● 被災されて一番大変だったのは、何ですか。

井川 ● 水ですね。ライフラインはすべて寸断されたのですが、ガスはプロパンでしょ、電気はその日のうちに復旧しました。水だけは、復旧するまで10日ほどかかりました。幸い自衛隊の給水車が翌日きてくれて、飲み水は確保できたのですが、トイレの水が…。自衛隊の方が運んでくださった貴重な水、もったいなくてトイレには使えませんよ。普段物がありふれていて、お金を出せば何でも買える時代でも、水道が寸断されただけで、相当大変なことになると気付かされました。

番匠 ● 七尾の倫理法人会には、すぐに県の倫



能登地区のモーニングセミナーへ、加賀からでも2時間かけて来てくれる。それも、月に1度ではなく、毎週でも。これが石川県倫理法人会の強さだと思います。単会を超えて応援する気持ち。倫理法人会は凄いパワーをもっている。そういう雰囲気の中で、自分が磨かれていく気がしますね。

七尾市倫理法人会 会長
有限会社 牛勝 代表取締役

ばんしょう ひさお
番匠 久雄氏

友の方や、以前からご縁があったスーパーバイザーの方から、いろんな形でお見舞いやご支援をいただきました。七尾には当時100名余りの会員がいたのですが、みんなで手分けして、いただいた義援金を1件1件配りました。中には、被害はなかったから受け取れないという人もいましたが、みなさんに配らせていただきました。

井川 ● みなさんからの電話だったり、わざわざ、ぼた餅や味噌汁を持って駆けつけてくれた方々ですとか。人の絆が一番ありがたかったですね。大阪からも、私の取引業者ですけれども、防災のシートを持ってわざわざ来ていただいたり。

番匠 ● 倫理では「苦難は幸福の門」といいますが、井川さんにとって、能登半島地震はどのような意味がありましたか。

井川 ● 人と人との絆がより深くなりました。遠くの親戚より、近くの他人と言うじゃないですか。近所両隣がそのときに絆が深まりましたね。それと、普段の生活ができない苦しみを経験しました。これも「人間贅沢してはいかんだよ」という知らせなんですよ。「過信してはいかんよ」という忠告なんですよ。

番匠 ● 震災が起こり、困難な状況に陥った時、ライフラインが寸断されている、普段の生活が送れないんだという状況をまず受け入れますよね。そこから、みなさんのお力をお借りしながら一緒に力を合わせて復興していく。被害があった能登の商店街では、震災復興という形でいろんな予算がつき、きれいになっている。震災前よりもっときれいになっています。しかし、それだけでは不十分だと思うんです。震災によって深まった人の絆と、新しく生まれ変わった町並み、それらを生かして新しいもの、ひいては賑わいを創造していかなくては、本当の意味での復興にはならないのではないのでしょうか。きれいになった今の奥能登の町をみてください、人がいなくなっているでしょ。人口減少は大きな問題です。震災という苦難を乗り越えた経験を生かし、能登を活性化していくことが、私たち倫理法人会の役割だと思います。

10年目の能登、倫理で地域活性

番匠 ● 今年で七尾市準倫理法人会が開設されてちょうど10年という節目の年になります。七尾市準倫理法人会の開設式典に参加させていただいたのが、倫理との最初の出会いです。

井川 ● その2年後に正法人会設立となるわけ



当面の目標は、奥能登倫理法人会の会員数を100社に戻すことです。それこそが能登に元気を取り戻す方法ではないでしょうか。奥能登の倫理の流れを絶対に枯らしてはいけません。それには動くしかない。みなさんに理解していただけるよう、素直に純粋倫理を伝えたいと考えています。

奥能登倫理法人会 会長
井川造園株式会社 代表取締役

井川 國雄氏

ですけど、確か県の500社達成と同時にでしたね。その当時のモーニングセミナーは、どんな様子でしたか。

番匠 ●会場も今と場所が違っていて東側に大きな窓がありましてね、モーニングセミナーをやっていると朝日が昇ってくるのが見えました。すがすがしい気持ちになったものです。モーニングセミナーの参加人数は20名前後。そういう状況が1年間は続きましたかね。徐々に若い方々が入会してきて、いろんな面で活性化してきましたね。七尾市倫理法人会が設立されてから、石川県全体の倫理法人会が活性化してきたのではないのでしょうか。この10年で、会員数が3倍以上になりました。

井川 ●能登に倫理の灯を燈したいというのは、石川県倫理法人会の念願でしたよね。石川県に倫理を伝えた藤井昶夫先生のご出身が輪島市の門前ということで。

番匠 ●そうなんです。藤井先生が、ふるさとに何としても倫理の灯を燈したいという一心で、京都から手弁当で石川県へ通い詰めて、ようやく表征史初代県長と出会い、石川県倫理法人会が誕生するわけなんです。石川県に倫理を、次に能登に倫理をとということで七尾に回ってきました。今度は、藤井先生のご出身である奥能登に何とか倫理法人会を作りたいね、そう思っていた矢先に、能登半島地震が起きたわけです。

井川 ●当時、私は七尾市倫理法人会で幹事をしていました。藤井先生が、ご高齢ということで、藤井先生の元気なうちに、能登に倫理の灯を燈したいという雰囲気は県全体にありましたね。

番匠 ●当時の県会長だった中崎さん、七尾の中橋会長そして普及拡大委員長をされていた小幡さん(現・金沢市南倫理法人会会長)のお三方が一生懸命に動かれてまして、平成21年の3月25日、まさに能登半島地震が起こった日に合わせて奥能登準倫理法人会が開設されました。

井川 ●正法人会の設立が半年後でしたね。

番匠 ●藤井先生は当時90才。先生の喜んでいらっしゃる姿を見られてよかったね、とみんなでした。

井川 ●開設式典でものすごく長い挨拶をされて、これはもう講話なんじゃないかなって声もありましたね(笑)。藤井先生は確か、ナイトセミナーでも、講演されたかな。

番匠 ●七尾市準倫理法人会を開設したときも「本当に嬉しい。京都から石川県へ手弁当で通ってきて、何とかできあがった石川県倫理法人会。設立から10年間は、全然普及拡大が進まず眠れる巨人と言われ続けました。そのころは、能登に倫理が広まるとは思わなかった」と喜んでおられましたし、まして、自分の地元の輪島市に単会ができたということで先生のお喜びもひとしおでした。

井川 ●あれから5年ですから、先生は95才ですか。今も元気にモーニングセミナーへ参加なさっているそうですよ。しかも最前列に座って。奥能登倫理法人会は藤井先生が創った単会なんやもんな。藤井先生のためにもがんば

らにやいかん。今回のイベントは、そういうことを思い出すいい機会でもありますね。

番匠 ●井川さんも、あのころの熱い気持ちを思い出しましたね。石川県で倫理法人会が設立されて25年、七尾市準倫理法人会が開設されて10年になります。そろそろ自分達の生活、家庭、会社、地域において、倫理で勉強してきたことを少しずつ実践していかなければいけない段階に来ていると私は思います。モーニングセミナーもいい話を聞くのが目的ではなく、その話を聞くことで自分を変えられるかが問題でしょ。聞く会ではなく、実践する会。行動に移せなければ意味がありません。

今回のコンサートも、単にチケットを売るだけでなく、みんなで想いを共有しなくては意味がない。良い音楽を聴く会ではなく、なぜ又川さんがこのコンサートを続けているのか、その想いを倫理法人会のメンバーはもとより、一般の方にも共有していただき東北に伝えなければならぬのではないのでしょうか。

タイトルが「千の音色」となっています。日本の各都道府県で1回演奏しただけでは、千にはなりません。今回の能登演劇堂でのコンサートを皮切りに石川県各地で、ヴァイオリンコンサートを開催していただきたい。規模の大小はさておき、そのきっかけになればいいなと思っています。ぜひ、石川県の1100名ほどの倫友のみなさんに心を寄せていただいて、つなげていただけたらと思っています。

井川 ●そのためには、会場を満員の人に来ていただき、一杯の熱気を東北に届けたい。七尾市倫理法人会と奥能登倫理法人会で、力を合わせがんばりましょう。





4 / 5 土 開始 / 午後 3:00
終了 / 午後 5:20
[受付開始] 午後 2:30 ~

会場 / 能登演劇堂
七尾市中島町中島上部9
入場料 / 大人 1,000円 ※全席自由席
中学生以下 500円 ※未就学児入場不可
【お問い合わせ】.....
石川県倫理法人会 千の音色でつなぐ絆コンサート事務局
(七尾市八幡町口25-1)
TEL. 0767-57-8121 (平日午前中のみ受付)
URL. <http://www.rinri-ishikawa.com/ishirin/nanao.html>

主催：(一社)倫理研究所 石川県倫理法人会 共催：千の音色でつなぐ絆コンサート実行委員会
後援：石川県教育委員会・七尾市教育委員会・能登空港利用促進同盟会・北國新聞社

主管：七尾市倫理法人会・奥能登倫理法人会

会 員 紹 介

能登・金沢・加賀の3つのエリアから毎号4名の会員をご紹介します。

金沢エリア



金沢市倫理法人会 副会長
あおやま はるみ
青山 晴美さん
株式会社あどべん太 教育事業部長

自立心を育み、心を伝えたい

幸せな家庭で育った子供は、勉強に対する意欲が高く、逆に家庭が乱れていたり、幸せを感じない子供は勉強しないという傾向があります。家庭環境が学習成績につながるんです。最近のお子さんを教えていて感じるの、書く力がないということ。感情を表せない、感動ができないなど、子供たちの心に原因があります。子供達に家族の安らぎを感じてもらいたくて、当塾では夕食を出しています。家に帰るよりも塾が楽しいって、毎日食べる子もいるくらいです。家庭環境が子供の心に与える影響の大きさを日々実感しています。当塾が目指す教育は、学習面での「1人1人の自立」ですが、私たちはそれに加え、心を伝えたいと思っています。倫理法人会で学んだことをはじめ、生き方を子供達に伝えて行く。これが今の私の倫理実践です。

能登エリア



七尾市倫理法人会 幹事
せとみ のり
瀬戸 三代さん
株式会社のと楽 経営企画社長室長

人格の向こうに仕事がある

万人幸福の葉十七箇条は、彫刻のように何度も削り、磨いていく中で無駄のない研ぎ澄まされた今の形になったのでしょね。声を上げて読み上げると内容が心に深く沁み込んできて、ありがたみを感じます。自らを奮い立たせるためにも、輪読には必ず参加しています。そうすると、心にはりが出て、さわやかな気持ちでその週を始められるんです。経営学をやっていると、結局最後は人だよ、自分だよって話になります。倫理法人会は私にとってまさに自分磨きの道場のような所。ここで人格を磨き、仕事に活かして行く。「人格の向こうに仕事がある」のだと思います。私の仕事の根底にいつもあるのは「能登を元気にしたい」という思いです。地域の活性化に貢献することを企業のミッション、自分のミッションと考え、日々奮闘しております。

加賀エリア



能美市倫理法人会 副専任幹事
かわかみ しんのすけ
河上 伸之輔さん
シナジーコンサルティング株式会社 代表取締役

働くことの喜びを分かち合うために

資産運用で、30歳にして経済的自由を得ました。育児のため、半年ほどセミタイヤしていた時、幸せについてじっくり考えてみました。気付いたのは経済的に豊かになっても、心は満たされないということ。人を幸せにする仕事をしたい。仕事にとって重要なのは、経済的な成果だけではなく、社会にどれだけの価値を生み出したかということ。僕はお金の自由を得ることで、はじめて「働きは最上の喜び」の真意を知ることが出来ました。石川県に来て一番感じたのは、皆が生きて働いていないということ。その原因は仕事のやらされ感ではないでしょうか。周りの同世代の人たちの働く環境を改善したい、という思いからシナジースペースを立ち上げました。「自立して楽しく働く仲間を増やす」ことが僕のミッション。事業や活動のベースとなっています。

加賀エリア



加賀市倫理法人会 会員
かみで あきふみ
上出 晃史さん
株式会社ホテルききょう 代表取締役

倫理が学べる観光ツアーを企画中

倫理法人会で「いのち」をテーマにした講演を聞く機会がありました。内容は子供の不登校や家庭の問題に関するものでした。実は温泉場で働く方々で、そうした悩みを抱えているケースはすごく多いんです。朝が早くて夜は遅い仕事ですから、親と過ごす時間は少ないが、友達と遊ぶ時間はたっぷりある。夜も自由。それで、子供の教育で悩んでいる方が多いんです。講演の内容がとてもよかったので、お子さんのことで悩んでいる従業員に一度相談してみたらと、講師の方の連絡先を調べてあげました。実は今、その方を当ホテルにお招きして「生きることへの意味」というテーマで講演していただくという計画が進行中です。老人会をターゲットとした宿泊プランの1つになるのではと密かに期待しています。倫理が学べる観光ツアー、みなさんもいかがですか。